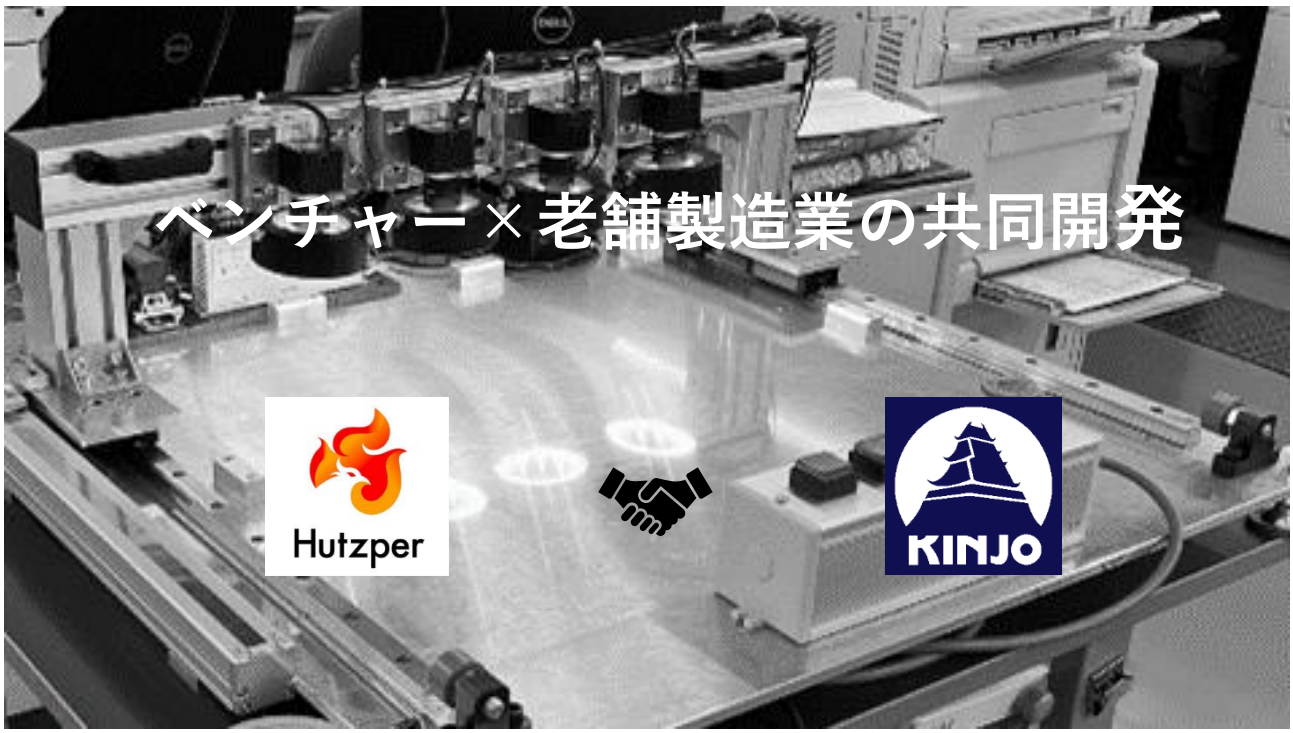
ものづくりイノベーション支援助成金 採択企業の活用事例

錦城護謨株式会社

住所	大阪府八尾市跡部北の町１丁目４番 25 号	資本金	8,000 万円
設立	昭和11年5月	従業員数	275人
企業HP	http://www.kinjogomu.jp/		
代表者	太田　泰造　　（TEL:072-992-2321）		
事業内容	主な事業内容は、ものづくりゴム製品製造・販売、土地づくり地盤改良製品製造、施工、福祉製品製造・販売		
計画名	令和4年度ものづくりイノベーション支援プロジェクト 線状(汚れ)検出を搭載した AI 検査機の技術開発		
計画概要	人の目視で高度な検査スキルが必要な異物(0.1㎟)を瞬時に検出できる最先端 AI 検査機を開発・実証実験し完了させた。さらなる難度の高い線状(汚れ)検出を搭載した AI 検査機の技術開発を行う		



(1)助成金申請のきっかけは何ですか？

令和3年度大阪産業局「地域産業デジタル化支援事業補助金」を活用し、人の目で高度な検査スキルが必要な異物(0.1 ㎟)検査を省人化できる最先端 AI 検査機を開発したが、令和4年度更なる難度の高い不良品検出のための技術開発が必要になり助成金申請を行った。

(2)研究開発する中での課題は何でしたか？

当社の強みは約5000種/年の少量多品種生産。人の目と同様に、ゴム製品に多く見られる**異物不良**を**異形・多色製品**も検出できる「汎用型 AI 検査機」を検討したが、開発を進める中で、異形・多色製品の汎用性に限界、**1色1形状**の**専用機**になった。

（3）助成金を活用してどのような成果が得られましたか？
・令和5年3月　量産1号機開発完了後、商談を6回、8月は産創館の特別展示へ出展、他社へ成功事例を積極的に紹介。11月には本活動を高評価いただき「KANSAI　DX　AWARD2023 近畿経済産業局賞」を受賞、令和6年3月日刊工業新聞へ記事掲載、地域への反響大。
（4）今後の方向性について教えてください。
異形・多色製品の汎用性に限界がある事をベンチャー企業との協業で技術開発を学習した。学習結果を踏まえて AI システムを活用できるテーマを選定し生産性向上・省人化を図る。早速弊社は、波及効果として令和7年「新 AI システム」を開発中。
＊引き続き行政のお力添えも頂きながら進めます。

以上